

展示室のようす

## 第1回 出土品展

### 地中からのメッセージ

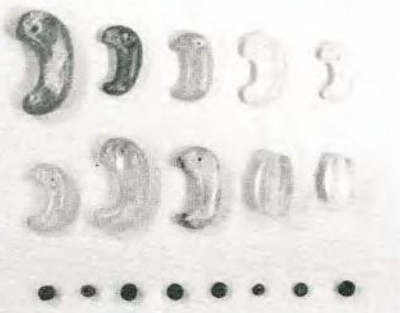
平成5年12月1日(水)から平成6年1月16日(日)まで『第1回出土品展～地中からのメッセージ～』を開催しました。

今回の展示会では近年、川越市内で発掘調査された最新の考古資料をいち早く市民のみなさんにご紹介しました。

展示室では、市内の各地区毎に5つのテーマを設け、約400点の出土品を展示しました。

導入部の「地中からのメッセージ」では来館者の方たちに発掘現場に立った時の臨場感を味わっていただけるよう、竪穴住居跡の実物大の模型や発掘調査時の写真パネルを展示しました。

「仙波貝塚とその周辺」では、小仙波4丁目遺跡や弁天南遺跡など縄文以来多くの人々の生活の



山王塚西古墳出土装身具



幸町旧小山家出土陶磁器

舞台となった仙波地区の遺跡を展示しました。

「南大塚古墳群とその周辺」では、南大塚・的場地区の遺跡の中から山王塚西古墳と平安時代の集落跡五畑東遺跡を取り上げました。

「河越館とその周辺」では、中世陶磁や板碑など上戸地区に所在する中世武士団河越氏の館跡に関わる出土品を紹介しました。

「城下町川越」では、これまであまり紹介されることのなかった江戸時代の川越城とその城下町に関わる出土品を展示しました。

会期中には、年末年始の忙しい時期にも拘わらず多くの方々のご来館をいただきました。

最後に、本展にあたりご指導・ご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

## 二代目川越藩主

# 酒井忠利書状について(子息忠勝宛)



酒井忠利書状(切紙)

以上  
砂之池之鯉為取遣候。上様・大納言様・宰相様其外大名衆へ越申候間、其方ニ而能く鯉見わけよき臺を誂させ早々可遣候。自分へもこい二本指遣候。右申遣候とこく大名衆へ大キ成こい遣。大炊殿・雅楽殿・右近殿・主計頭殿・信濃殿・筑後殿右之衆へハ中之鯉ニ而も不苦候。何もよき様に見合候而可遣候。若こい残り申候ハ、和泉守・内記助かたへ一本ツ、可遣候。恐々謹言。  
二月廿三日 備後(花押)  
酒井謙政守殿

### 解読文

この文書は、元和9年(1623)2月23日酒井備後守忠利が川越藩主時代に、子息忠勝に宛てた書状です。この文書は、『小浜市史』で紹介しており、今回は、それより引用させていただきました。

文意は大約すると「池の鯉を差し上げます。秀忠様・家光様・忠長様その他大名衆の方々に申しましたので、あなたが鯉を選び、よい台をあつらえて、早く方々に献上してください。あなたにも鯉を二匹さしあげます。以上申したよ

うに、大名衆方へは大きくりっぱな鯉を献上し、土井利勝・酒井忠世・永井直勝・井上正就・永井尚政殿等の方々には、中くらいの鯉でもかまいません。とにかく、それぞれの身分に見合うように、献上してください。もし小さい鯉が残ったならば、酒井忠吉と酒井忠重方に一匹ずつ差し上げてください。」というものです。つまり、父忠利が子息忠勝に、將軍家並びに將軍の側近衆への献上品は、よくよく留意して選び、かつ、身分相応の品を献上するようにと、献上品を差し上げるにあたっての注意事項を、述べているということでしょう。

酒井忠利は、川越藩二代目の藩主です。川越には、慶長14年(1609)駿河田中城(現在の静岡県藤枝市)から、移封してきました。

雅楽頭正親の子で、永禄2年(1559)生まれです。天正4年(1576)徳川家康にはじめて供奉し、慶長5年(1600)から秀忠に仕えました。以後秀忠の側近として信任を得、慶長14年老中職に列しました。元和2年(1616)に家光の補佐役となりました。この元和9年には、すでに63才でした。

一方の忠勝は、備後守忠利の子で、天正15年(1587)生まれです。父忠利とともに、慶長5年徳川秀忠にはじめて供奉しました。同14年従五位下・讃岐守に叙任されました。元和6年(1620)4月には、家光附きとなり江戸城西の丸奉公となりました。同8年(1622)には一万石を領して、武蔵深谷城主(現在の埼玉県深谷市)となりました。この元和9年は、7月の家光の上洛に供奉しています。この年36才でした。

この文書がだされた元和9年という年は、家光が三代将軍に就任した年です。すなわち、秀忠から家光へと、将軍の代替りが行なわれた年です。また、酒井家にとっても、忠勝が前年の元和8年(1622)には「代忠利公執事」と「忠勝公年譜」(酒井家文庫蔵)に記載されています。そして、寛永元年(1624)には老中に就任しておるので、この年の前後頃に忠利から忠勝へと、将軍への勤仕の代替りが、行なわれたものと思われる。

こうしてみると、元和9年という年は、将軍家にとっても酒井家にとっても、代替りという大変意味のある節目の年といえます。

かつて、家康が秀忠に将軍職を譲った後、徳川四天王といわれた武功派の武將と、家康側近の武將達そして、秀忠側近の官僚派の武將達の間で、激しい内部抗争がおこり、本多正純・大久保忠隣など、譜代の家臣が次々に失脚する事件がおこりました。

酒井忠利は、幕閣のなかでこれらの事件を、目のあたりにみていたことでしょう。そして、徳川政権安泰のために、譜代の家臣であっても子息まで一貫して重用された者は少ないという状況を、強く感じていたことでしょう。それゆえ、将軍の代替りが間近に迫っている時期に、子息忠勝に宛てたこの文書は、意味あるものと思われる。

以上のことをあわせて考えると、この文書から、父忠利から子息忠勝に対する教訓、つまり譜代大名名門の家柄であっても、それに安心することなく、将軍家はもとより、将軍の側近達に対する気配り・配慮を怠ってはならないということ。また、幕閣のなかで、確固たる地位を築いてほしいという願いや思い等が、読み取れるのではないのでしょうか。

さらに、当時の上級武士達の考え方や、風潮などを垣間見ることができるとおもいます。

その後忠勝は、家光から厚い信任を受け、官位も従四位上・左少將に進み、寛永15年(1638)には大老に昇進しました。そして、将軍家の後事を託されるまでになりました。また譜代・外様大名はもとより、皇室・公家衆など幅広い層の人々の信任を得るほどの人物になりました。

こうした忠勝を育てた父忠利の影響は、はかりしれないものがあつたと思います。

この文書は、その一部分を物語っている大変興味深い書状ではないでしょうか。

最後に、書状の内容や当時の状況、つまり、前年の8月家光が、忠利の居る川越城を訪れていること。一方忠勝は、この年の7月に行なわれた家光の上洛に供奉していたこと等から、この書状は、川越に居た忠利から、江戸に居た忠勝にだされたものと思われる。

(付記)

今回この古文書の写真掲載にあたり、小浜市立図書館ならびに小浜市史編纂室から、多大な御協力を賜りました。ここに、厚くお礼申し上げます。

#### 《参考資料》

『小浜市史』藩政史料編一

『徳川実記』第2編

「忠利公年譜」・「忠勝公年譜」酒井家文庫

『国史大辞典』・6

小林明「久能山の文化財(25)酒井忠勝書状(神保重利宛)」(『久能山東照宮文化財保存顕彰会会報』第26号、1993年8月)3頁。

(学芸係 井口 信久)

## 館蔵品展 ～美術資料を中心として～

◆会期 平成6年3月23日(水)～5月8日(日)

川越市立博物館は、平成2年3月に開館以来、地域に根ざした博物館として4年間にわたって活動を展開してきました。その間、川越ゆかりの郷土資料を中心として収集に努め、開館以前の準備期間中に購入・寄贈を受けた資料とあわせて着実に館蔵品の増加を見えています。

今回は、開館4周年目の春を迎えるにあたり、初めての試みとして館蔵品の中から絵画・刀剣・甲冑などの美術品を中心として公開します。

これらの展示を通して郷土ゆかりの文化、芸術を鑑賞し、併せて郷土文化の軌跡への理解を深めていただければ幸いです。



東照権現像

### 【東照権現像】(重要美術品)

「東照大権現」は徳川家康が没した1616年の翌年、後水尾天皇から贈られた勅諭号です。この作品は江戸初期、天台宗の寺のお抱え絵師が描いたと考えられます。昭和11年9月、文部省より重要美術品の認定を受けています。

### 【東北院職人歌合】

建保2年(1214年)9月15日、東北院で職人たちによる歌合わせが催されました。題は「月」と「恋」。本作品は各々が歌を詠んだ後、判詞が続くという構成で描かれています。



東北院職人歌合

### 【小村雪岱】(1887～1940)

雪岱は、大正から昭和初期にかけて美人画をはじめ版画、挿絵、舞台美術などで活躍、一世を風靡した画家です。

泉鏡花の文学に傾倒し、鏡花の作品の装丁を手がけました。「雪岱」の雅号も鏡花から送られたものです。



小村雪岱 忠臣蔵 (1935年～1940年)

**【小茂田青樹】** (1891～1933)

小茂田青樹は入間郡川越町大字川越の呉服店相模屋の次男として生まれました。

16歳で画道を志して上京し、松本楓湖の安雅堂画塾に入門しました。同門には牛田鶏村、富取風堂そして速水御舟らがいます。

後に同門の今村紫紅、速水御舟らと共に赤曜会を結成、紫紅の死後は院展目黒派の一人として近代日本画の改革に貢献しました。

特に風景画に才覚を顕し、また、鋭い観察眼と装飾性は高い評価を得ています。

**【岩崎勝平】** (1905～1964)

岩崎勝平は明治38年、川越市内の幸町に生まれました。官展アカデミズムの中心作家岡田三郎助に師事、新文展で特選をとるなど新進画家として将来を嘱望されましたが、戦禍の中、花開きかけた芸術への情熱は風潮に馴染まず屈折したものへと移っていきました。

戦後、画壇との交渉を一切断ち、孤独のうちにその生涯を閉じました。



岩崎勝平 双柿図 (1950年頃)



小茂田青樹 鳴鶏 (1931年頃)

**【藤枝英義】** (1823～1876)

英義は川越藩主、松平大和守家の御抱刀工です。細川正義の高弟で多くの優れた刀を作りました。川越を代表する刀工です。



藤枝英義 短刀 (1855年頃)

以上、簡単に作品の一部をご紹介しましたが、川越という風土を文化、芸術の面から探って見たいと思います。どうぞお気軽にご覧ください。

(文責 美術館準備室 石黒 義弘)

## 学校教育と博物館(7)

### 小学校第3学年社会科における博物館活用

博物館は、その事業を行うに当たっては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助しようようにも留意しなければならない。(博物館法第3条第2項より)

小学校第3学年の社会科には、地域の人々の生活について理解させ、地域社会を大切にすることを育てることをねらいにした内容があります。そこでは、地域の自然環境と結び付いて営まれる生活や、消費生活、生産活動などについて学習するほか、およそ100年くらいの間の生活の移り変わりについても学習します。今回は、「川越市の人々のくらしのうつりかわり」を学習する際の市立博物館の活用について考えてみましょう。

児童は、1・2年生の生活科の学習で、自分の誕生から現在までの生活や成長を、かつて使ったおもちゃや食器、写真などの具体物と家の人の話などから振り返り、成長には多くの人々の支えがあったことや、成長への期待と願いがあることに気付いてきています。また、それらの気付きを通して自分の生活に希望を持ち、意欲的に生活しようとする態度も育ってきています。3年生で学習するのはおよそ100年間の生活の移り変わりという、児童にはやや抽象的な歴史的な事象についての学習ですが、生活科で培ってきた「具体的な活動や体験を通して」学ぶ学習の仕方を重視し、古い道具などの具体物を観察・使用したり、身近な人の話を聞いたりすることで、実感を持って理解できるようになるでしょう。

道具や家屋、交通などの具体的な事例を取り上げた学習を進めるとき、博物館を活用することは次のような点で有効であると思われます。

第1に、博物館には物が単体で置いてあるのではなく、調査・研究の成果から構築された展示の中の1つとして存在することです。例えば、新河岸川の河岸場模型には、明治時代の建造物(家屋、神社の社殿、火の見、橋、他)、交通(舟、荷車、道路、他)など多くの情報を持つ

景観が再現されています。これらの情報の中から、児童は自分の興味・関心や課題にそって必要な情報を引き出すことができます。自分に必要な資料を選択し、読み取る能力を育てることができる場と言えるでしょう。

第2に、博物館に展示されている資料が児童の生活している市内のものであることです。例えば、今からおよそ100年前の蔵造りは現在でも市内で見ることができ、博物館での学習を生かして実際に見学したり、蔵造り資料館の店蔵にあがって生活の様子をみたりすることもできます。博物館にある地域素材を活用することで、地域社会や児童の生活に根ざした社会科学学習を一層進めることができるでしょう。

第3に、博物館にあるものの多さです。児童の生活している家庭や地域が大きく変容し、学校で児童に古い道具を持って来るよう依頼してもなかなか集まらないという話を耳にすることがあります。教科書や副読本では絵・写真・文章でしかとらえられない道具を、博物館では実物(またはそれに近い資料)で見られるものが多くあります。市立博物館では、昔の生活の様子がより具体的に理解できるよう、ミニ展示「むかしの勉強・むかしの遊び」を、3年生の学習時期に合わせて毎年開催しています。

展示室での学習中、児童が来館者のおばあさんから展示してある道具を使っていた頃の話を知っていたり、後日、家族の人たちと来館し、展示資料を見ながら質問し、それに答える父母や祖父母の子供の頃の話に耳を傾けていたりする姿が見られます。児童は学校教育で培った学力を基に、博物館を身近な学習の場として、生涯に渡って活用し続けていくことでしょう。

(教育普及係 平野 秀昭)

# 博物館のご利用について

～お客様のお問い合わせから～

気候が暖かくなると、戸外へ出るのが楽しくなります。この時期、旅行やハイキングの計画を立てている方はきっと多いことでしょう。

初めての土地、初めての場所を訪ねたときに、事前に詳しく情報を得ていれば、もう少し充実した時間が過ごせたのにとすることがよくあります。旅先ではほんのちょっとした情報でも大いに役に立つことがあるものです。

川越市立博物館では、パンフレットの常備、案内板の設置、チラシの配布をはじめとし、普段からお客様への情報提供を心がけております。しかし、博物館を初めてご利用の方などには情報が伝わりにくいようで、受付への問い合わせは絶えません。情報提供の方法については、もう少し検討する必要があるのかもしれませんが。

そうした反省もふくめ、今回は、博物館のご利用について、お客様からお問い合わせを受けることが比較的多いものを紹介いたします。次回、ご来館の際に、お役に立てば幸いです。

## (1) 入館料について

博物館入館料は、大人200円、学生・生徒100円、児童（小学生）50円です。20人以上になりますと、団体割引でご利用いただけます。また、博物館と合わせ、本丸御殿、蔵造り資料館（ともに入館料は、大人100円、学生・生徒50円、児童30円）を見学される方は、一枚で3館をご利用できる「3館共通券」が便利です。料金は、大人300円、学生・生徒150円、児童80円と、割引になっております。なお、本丸御殿、蔵造り資料館は、博物館併設ではありません。

## (2) 外国語パンフレットについて

博物館では日本語パンフレット以外に、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ハングル語の

パンフレットを用意しています。外国のお客様をご案内の際には、受付にお申し出下さい。

## (3) 市内の観光情報について

受付カウンターに、市内観光パンフレット、観光マップなどを用意しています。お気軽にご利用下さい。

## (4) 展示解説について

展示室には解説員がおり、みなさまのご質問におこたえます。また、ご希望のお客様には無料で展示の解説も行っています。お申し込みは個人でも団体でもお受けしますが、事前に、人数、来館予定時間、所要時間の連絡をいただくと幸いです。

## (5) 車いすをご利用の方へ

展示室内は、段差の生じる場所にスロープを設けておりますので、車いすでお越しの方にも安心してご利用いただけます。また、視聴覚ホール入口手前には車いす専用のお手洗いもございます。なお、博物館でも車いすを用意しておりますので、使用される方は受付にお申し出下さい。

## (6) コインロッカーの使用について

博物館入口より向かって右側、喫茶室入口向かいにコインロッカーがありますので、手荷物の多い方はぜひご利用ください。なお、ご利用の際には、100円硬貨を入れていただきますが、使用後に戻ります。

以上、簡単に博物館ご利用の案内をさせていただきました。これ以外にも、困ったこと、わからないことなどございましたら、遠慮なく職員におたずねください。皆様に有意義な時間を過ごしていただけるよう、お手伝いいたします。

(教育普及係 山下 清美)

## ●●●平成6年度のおもな事業●●●

### ○展示計画

- 館藏品展 --美術資料を中心として-- 3月23日(水)～5月8日(日)
- 館・収蔵品の公開 5月21日(土)～6月26日(日)
- 燻蒸・館内清掃のための休館日 7月1日(金)～7月10日(日)
- 収蔵品展 7月23日(土)～9月25日(日)
- 没後30年記念 川越の鬼才 ー岩崎勝平ー 10月8日(土)～12月4日(日)
- 館藏品の公開 12月17日(土)～1月16日(月)
- ミニ展示 1月24日(火)～3月5日(土)
- 川越学事はじめ --郷土史の先覚者たち-- 3月25日(土)～5月14日(日)

### ○講座・教室

- 野外博物館教室 4月24日(日) 新河岸川を歩く  
10月23日(日) 喜多院・東照宮を歩く  
11月6日(日) 鎌倉みちを歩く  
1月15日(日) 餅つき踊りと山王塚
- 古文書講座 5月14、21、28、6月4、11、18日(毎週土曜日)
- 子供博物館教室 8月3、4、5、23、9月17、10月22、11月20、  
12月17、18、1月28、2月18日
- 縄文土器を作ろう 9月11、24、25、10月9日(10月16日は予備日)
- 歴史講座 11月12、19、26、12月3日(毎週土曜日)
- 拓本講座 2月19、26、3月5、12日(毎週日曜日)

講座の案内、募集のお知らせは、川越市広報、チラシなどで随時行います。詳しい内容などに  
つきましては、博物館にお問い合わせ下さい。

## ❀❀利用状況❀❀

月	一 般			団 体			共 通			そ の 他			合 計
	大 人	学生・生徒	児 童	大 人	学生・生徒	児 童	大 人	学生・生徒	児 童	他館購入	招 待	免 除	
11月	2,894	114	254	484	24	5	3,184	87	131	4,014	179	8,673	20,043
12月	1,229	79	124	205	0	0	792	56	48	1,346	235	3,450	7,564
1月	2,214	264	351	249	0	0	1,378	57	125	2,509	221	2,173	9,541
2月	2,041	98	332	291	0	0	1,554	86	90	2,328	70	7,061	13,951

発行日

平成6年3月31日

発行

川越市立博物館

〒350 川越市郭町2丁目30番1号

TEL 0492-22-5399